

令和2年度 英語教育充実プラン 南国市立日章 小学校		研究テーマ (英語教育推進方針)	新学習指導要領全面実施における適切な学習評価の在り方について。					
年度当初の状況（4～5月調査を記載）		到達目標	年度末の到達目標達成状況（2月調査を記載）					
調査項目（意識調査の項目）			肯定的回答%	達成状況	考察			
児童	①英語（外国語活動）の授業は、楽しい。	1 児童の意識調査 ・①の項目について5%以上向上 ・②の項目について90%以上を目標値とする ・③の項目について98%以上を目標値とする 2 教員の意識調査 ・④～⑤までの項目について5%以上向上 ・⑥の項目について100%を維持する。	84.1%	84.5%	①～③のすべての項目において、目標を達成することができなかった。 ①は達成できなかったものの、0.4%は向上することができた。②は6.8%、③は7.0%の減少となった。	教科会を強化することにより、高度なものを求めすぎてしまった。教員一人ひとりの意識は高まったものの、教材との向き合いに苦慮した面や、若年教員への対応等、児童に十分な授業を提供することができなかった面があった。		
	②英語で友だちや先生と会話することが楽しい。		85.4%				78.6%	
	③英語は大切だと思う。		96.3%				89.3%	
教員	④学習指導要領の趣旨について理解できている。		50.0%	50.0%			⑤、⑥の項目は目標を達成することができた。特に、⑥は年間を通して100%を維持することができた。 ④は5%以上の向上は達成することができなかったものの、数値を下げることはなかった。	教科会を通して教師一人ひとりの意識は高くなったことから、このような結果を残すことができたと推察できる。
	⑤学習評価の在り方について理解できている。		25.0%	33.3%				
	⑥T1とT2の打ち合わせや授業後の振り返りができている。		100.0%	100.0%				
到達目標達成のための取組		組計画		指標達成状況				
項目	成果指標	5～2月		達成状況	年度末評価			
自校（拠点校）の英語教育の推進体制の構築	意識調査（児童用）②の項目において88%以上。	○英語推進（加配）教員が、新学習指導要領に基づいた授業づくり等について指導・助言を行うことにより、自校（拠点校）の英語指導力の向上及び英語推進体制の構築を図る。 ○定期的な教科会を通して、単元計画の見直しや、学習活動の工夫・改善を図り、日々の授業改善に活かす。 ○市教委は、拠点校の公開授業並びに授業改善研修会を県内に広く周知し、拠点校の取組を他校に発信する。		○英語推進体制の構築はできたが、担任の英語指導力の向上については課題が残った。 ○教科会を充実させることができ、教員一人ひとりの意識が高くなり、中間評価の在り方や言語教材を豊富にするなどの改善点が得られた。 ○授業改善研修会は、県内広くから参加希望があった。更に、本市の小中学校には悉皆研修と位置付けて参加してもらうことができた。	B			
	意識調査（教員用）⑥の項目において95%以上を継続。							
小小連携・小中連携による小・中学校の英語教育の向上	意識調査（児童用）①の項目において90%以上。	○校区内の大湊小学校・香南中学校（英語推進教師）と日々の授業実践の情報共有を行う等、密接に連携を図ることにより、小小連携・小中連携による英語教育の向上を図る。 特に、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ○香南中ブロック英語部会を通して、拠点校の取組を小中で共有することにより、小学校高学年から中学校英語（中1接続カリキュラム）への円滑な接続を図る。 ○香南中ブロック英語部会において、Can-Doリストの見直しを行う。		○香南中学校（英語推進教師）が日章小と大湊小を隔週で訪問することができ、英語推進体制の構築に向けて指導・助言ができた。 ○拠点校の公開授業と香南中の公開授業にお互いがそれぞれ参加し合い、系統的な学びが定着できるように図った。 ○香南中ブロック英語部会において、Can-Doリストの見直しができた。	B			
	意識調査（児童用）③の項目において97%以上。							

【様式1】 ※A3版(1枚)に収める。

自校(拠点校)の英語教育の指導方法及び学習評価の在り方	意識調査(教員用)④の項目において65%以上。 意識調査(教員用)⑤の項目において50%以上。	○香南中ブロックで作成したCan-Doリスト形式の到達目標を達成する授業を目指す。 ○5つの領域「聞くこと・読むこと・話すこと(やりとり)・話すこと(発表)・書くこと」を意識した振り返りシートを単元ごとに行う。 ○「単元の目標」や「身につけさせたい力」を明確化して、授業づくりや単元計画を構築する。 ○「英語教育の指導方法及び学習評価の在り方についての研修会」の実施。 (授業改善研修会:講師 太田 洋 教授)	○Can-Dリスト形式の到達目標について組織的に取り組むことができた。 ○各単元ごとにそれぞれの領域について振り返りシートを実施した。 ○教科化を強化することで単元計画の見直しができる。 ○中間評価の在り方について、組織的な見直しを図ることができた。	B
------------------------------------	--	---	--	----------

※評価 A(十分達成) B(おおむね達成) C(あまり達成できていない) D(全く達成できていない)